

当直体制	指導医1名、研修医1名
当直回数(月平均)	2回
当直時の患者数	15人程度(病院全体)
当直手当	臨床研修手当に含む

研修医の役割 各科研修中の当直では、各診療領域疾患の初期対応(診察、採血、エコーなど)を行います。先進救急医療センターにおける研修では三次救急の対応を学びます。

指導医からのフィードバック 指導医がマンツーマンで指導し、その都度フィードバックを行います。診察から治療方針決定までの流れについて振り返り、手技の指導や画像読影も行います。

当直で身に付く手技・知識 基本的疾患の初期対応全般(採血、ルート確保、エコー、CT・MRI読影、心肺蘇生、縫合止血など)。

当直体制	指導医1名、研修医2名 (土日祝日で二次救急日の日直は指導医2名)
当直回数(月平均)	4~7回
当直時の患者数	10人前後
当直手当	平日 6,000円/回 休日 8,500円/回

研修医の役割 指導医の下、あらゆる救急患者に初診対応することで、プライマリーケアにおける問診能力と基礎技術の習熟を図る。

指導医からのフィードバック 形式的なものはないが、親切的な先生ばかりなのでわからないことは質問しやすい。専門の先生に紹介すると後日、患者さんの状態を教えてください。

当直で身に付く手技・知識 救急でのABCD。

当直体制	指導医1名、研修医1名(副直として)
当直回数(月平均)	3~4回(副直として)
当直時の患者数	5~10人程度
当直手当	10,000円/回(1年次) 15,000円/回(2年次) (副直手当として)

研修医の役割 指導医のもとで、副直として勤務。指導医とともにファーストタッチを行う。

指導医からのフィードバック その都度振り返りを実施、指導医からフィードバックを行う。レポートを提出して評価を受けることも。

当直で身に付く手技・知識 静脈・動脈採血、ルート確保、止血、縫合、腰椎穿刺等の手技、心電図、エコー、CT、MRIなどの読み方、全身を診るための知識。

当直体制	研修医1名、指導医は内科系・外科系各1名
当直回数(月平均)	4回
当直時の患者数	10人程度
当直手当	21,000円/回+実働時間分の時間外勤務手当

研修医の役割 指導医のもとアナムネ聴取や身体診察・検査のオーダー、治療を実施する。

指導医からのフィードバック その場で丁寧なアドバイスがあり、患者が入院した場合、入院後の経過についても報告を受けることができる。

当直で身に付く手技・知識 患者トリアージ、基本的かつ重要な診察・診断手技治療や一般処置。

当直体制	指導医2名(内科系・外科系各1名)、 研修医2~3名
当直回数(月平均)	月4回(救急部門選択週は6回)
当直時の患者数	20人程度(病院全体)
当直手当	超過勤務手当として支給

研修医の役割 指導医・上級医(内科系・外科系各1名)の指導のもとファーストタッチを行い、処置や治療を行う。

指導医からのフィードバック 当直の現場で丁寧な指導があり、後日、症例検討会でフィードバックを受けることができる。CPCの指導あり。

当直で身に付く手技・知識 救急部門(外来)としての初期対応(採血、ルート確保、画像診断読影、心肺蘇生、患者・家族への対応等)

当直体制	輪番日(3日に1回):指導医3名(1名は放射線科医)、研修医6名 非番日(3日に2回):指導医1名、研修医2~3名
当直回数(月平均)	6~8回
当直時の患者数	輪番日:20~25人、非番日:5人
当直手当	22,500円/回+時間外手当

研修医の役割 救急全症例のファーストタッチを研修医が行う。血液検査、CT検査なども研修医の判断で実施。

指導医からのフィードバック 鑑別診断まで行った後に指導医に相談し、フィードバックを受ける。週1回、救急症例全例の振り返り検討会を指導医と共に開催。

当直で身に付く手技・知識 救急症例の検査(エコーなど)から鑑別診断、治療計画までを1人で出来るようになる。動静脈穿刺、縫合、挿管などほぼ全ての臨床手技が身に着く。

当直体制	指導医2名、研修医適宜
当直回数(月平均)	適宜
当直時の患者数	20人程度
当直手当	25,000円~30,000円程度/回

研修医の役割 ファーストタッチを担い、指導医とともに救急外来から病棟入院までの対応を行う。

指導医からのフィードバック 救急現場での検査や診察の在り方、どの程度治療が必要か、また、その後の経過や当直時の対応の反省点などの指導を受ける。

当直で身に付く手技・知識 外傷の処置、救急外来としての検査の在り方、静脈ルート確保、CPRの実践など。

当直体制	指導医2名、研修医2名
当直回数(月平均)	4回
当直時の患者数	15人程度
当直手当	30,000円/回

研修医の役割 救急当番日の副当直として勤務。全てファーストタッチを行う。必ず内科系医師1名、外科系医師1名、管理当直医1名の3名がバックアップする。

指導医からのフィードバック 指導医より適宜診断や治療方針のディスカッションを実施。注意すべきポイントについても指導します。

当直で身に付く手技・知識 基本的疾患の初期対応。外科的手技、CPRの実施など。